セ ラ ム ！

ሰላም

「セラム」はエチオピアの公用語・アムハラ語で「こんにちは」。直訳すると「平安」「平和」という意味です。

愛する子たちと一緒にご挨拶

目次:

自分の人生の主役は…	1
命と 愛と 笑いに 満ちて	2
＊コラム＊ エチオピアの人間距離感	2
次世代への 平和の 架け橋を	3
収入向上を通して ～アジスアベバプロジェクト～	3
†覚えてお祈り下さい†	4
ご支援のお願い お問い合わせ先　他	4

昼食＆コーヒーセレモニーに招かれた日
炒ったコーヒー豆をつぶすマルタ

実はコーヒーが苦手なのに、私のためだけに
笑顔で準備してくれていました。
そんな優しい マルタが 今 主に
地域のフォロアップに関わっています。

支援者の皆様、新年明けましておめでとうございます。いつも温かいご支援とお祈りをもって共に労して下さり、心から感謝申し上げます。

エチオピア暦では9月11日が新年のため、1月1日もただの平日。私は休暇をとってゆっくり過ごし、続く1月7日、いつもと違う少し遅いエチオピアのクリスマスを迎えました。

ここ数ヶ月、戦闘や空爆を受けて激動したソマリア政情に深い悲しみを覚えつつも、ジジガにおける安全と平和が守られ、ソマリア治安も回復の兆しであるのは大変感謝です。ジジガプロジェクトの撤退、一つ一つの過程は辛いものでしたが、希望の光がきらめくのを見る日々でもありました。

自分の人生の主役は・・・

ジジガの人たちが抱えている問題の大きさを知っているゆえに、私たちスタッフたちにとって、プロジェクトの撤退を彼らに告げるのは、とても勇気のいることでした。しかし実際に人々がこれを聞いて最初に示した反応はなんと『感謝』でした。「本当は続けて助けて欲しい。でもこれまでとても助かった。ありがとう。」その反応を聞いた瞬間、私は涙が止まりませんでした。

エチオピアは問題が大きいため、多くのＮＧＯが大型支援を進めています。話に聞くある地の援助活動は、プロジェクト撤退を決めたのに、人々が抗議して事務所に押し寄せてきたため再び支援せざるを得なかったとのこと…しかしジジガの人たちは、支援を当然受けるべき権利や依存の温床とはしていませんでした。自分たちの人生の主役は自分たち自身であって、地域の中で責任をもって生きるべきことをわかっており、具体的な助けが受けられなくなる辛い状況の中でも、私たちに感謝の気持ちを表せる状態だったのです。

もちろんそうは言っても、孤児と養育者たちは先々への不安を感じています。そこで率先して動いてくれたのは各地域の孤児擁護委員会のメンバーたちでした。プロジェクト終了後も孤児が学校で教育を受けて将来への備えをしていくため、地域の助けも必要ですが、まずできる限り孤児の養育者が必要な収入を確保し、適切にそれを管理できることが大切です。そこで孤児擁護委員会と協力して、養育者のための収入向上指導・支援と金銭管理指導を行ないました。ただし、養育者がおらず、子どもだけの家族の家長で在学中の孤児7人については、彼らの将来のためにもっと時間をかけて個別に最善の対応を進められないか…更なる考慮の結果、今年4月末までスタッフのマルタが全日、サムエルが部分的に彼らと相談しつつ対応し、その期間に他の孤児・養育者・地域住民のフォロアップも行なった後、完全にプロジェクトを撤退することになりました。

学んだことを自分のものにするには、実際に生活し、困難に直面した時に、どのように解決すればよいか考え、乗り越えていく過程が大切です。その際に程よく助けられる環境があるというのは素晴らしいことです。ジジガの人たちが今後地域の問題をしっかり受け止め、自分たちで乗り越える力を身につけるために、意義あるフォロアップの4ヶ月となることを、心から期待し願っています。

命と 愛と 笑いに 満ちて

支援してきた孤児の一人、トニー・アルド（10歳）が一月に体調を崩したとの連絡がありました。その後回復し、ほっとしていたのもつかの間、HIV（エイズウィルス）検査で、彼がHIVに感染していることが判明しました。

ARV（抗レトロウィルス薬）を時々「エイズ治療薬」と訳す人がいるため誤解を生む可能性がありますが、ARVはウィルスの増殖を抑えるだけの薬で、エイズを治療すると言える薬はいまだ存在しません。

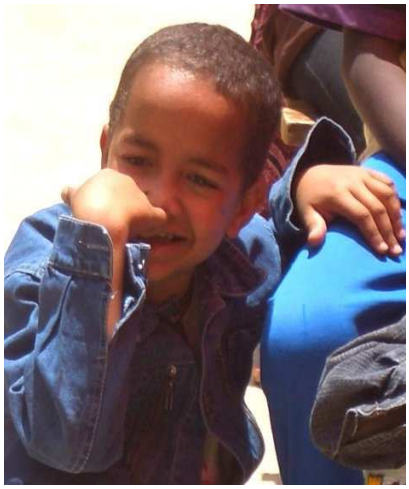
この間まで元気に遊んでいたトニーは、今どんな不安と苦しみの中にあるのだろう。何もできなくてもただ抱きしめてあげたいけど、今はそれさえならず、唯一祈り続けることしかできない…とても重苦しい気持ちでいました。
しかしある日、シーラ・カシィディという医師のホスピスに関する言葉を読んで、はっとしました。

「医学的に言えば、ホスピスは、積極的な癌治療がもはや適さない人々に、苦痛を和らげたり症状をコントロールするために存在しています。死にゆく人のためには、たとえそれが忍耐と勇気をもてただ傍らに座るだけのことだとしても、常に何かしらしてあげることがあります。一般の人々は、たいてい、ホスピスとは厳粛で、どちらかと言うと気の重くなる場所で、そこにいる人はひっそりと声もたてず、目も病人のように伏し目がちで、患者の家族が、逃れようのない結末をじっと待っている場所だと想像しています。しかしこれは、事実とはまったくかけ離れています。

ホスピスにおけるケアとは、命と愛と笑いに満ちたものです。というのも、ホスピスは、二つの確固とした信念の上に基盤をおいているからです。一つは、命は非常に貴重なものであり、一瞬一瞬を最高の人生として生きるべきだという信念、もう一つは、死とは命の一部に過ぎず、包み隠すことなくそれに直面し、両手を広げて迎え入れるべきものだという信念です。・・・」
(Precious Spikenard Catholic New Times of Toronto, 1985)

常に地域の将来を見据えている私たちの働きは一概に同じとは言えませんが、ジジガの状況、特にトニーに関して、これと重なる部分が大いにあります。悲惨な現実だけを聞いていると、ジジガは気が重くなる、悲しみに打ちひしがれるばかりの地、と想像されるかもしれませんが、本当は、心温かい人たちもそこに居て、愛と笑いと、何より命の尊さに出会える素敵な地です。悲しみや失望もたくさんありますが、それに換えがたい感動と希望も輝いている…だから私もジジガが危険で不便で堕落が目に付く街であってもなお大好きで、目を離さずにはいられないのです。

トニーのケアは彼の尊い人生の一瞬一瞬を大切にしながら、地域ぐるみで成される必要を覚えます。どうか、トニー自身と彼の養育者である60歳のお祖母様をはじめ 地域の人たちに豊かな導きがありますよう、お祈り下さい。


はにかみ笑顔のトニー

＊　エチオピアの人間距離感　＊

エチオピアの挨拶は、握手しながら、右、左、右と３～４回交互にお互いのほっぺをくっつけ、長い時間かけて安否をいろんな言葉で問い合います。更に、全身の力を込めてぎゅ～っとハグされることもしょっちゅう！最初は大いに抵抗を感じました。それでも滞在1年が経とうとする今では、白人来訪者相手にも同じ挨拶を無意識的にし、ついアムハラ語で話してしまうほどになってきました。

ところが、この度アメーバ赤痢に罹り、事務所の隣の病院に入院した際のこと。なんと入れ替わり立ち替わり事務所のスタッフがお見舞いに来るのです。すぐ思い出せるだけでも1日に20人。多分事務所にいたほぼ全員がやってきては安否を問い、祈ってくれました。また、何人もの人に「どうしてすぐ私に電話しなかったのか。何でも助けるから今度からは連絡しなさい。」としかられました。その後自宅療養中も、いろんな人から次々と電話がかかってくるのです。普段あまり話してない人まで…彼らの感覚ではそれが当たり前、自分の時もそうして欲しいし、そこまでしないと「人でなし」くらいの感覚のようです。

日々の挨拶は こんな感じ

「ここまで私のことを気にかけて愛を注いでくれるのはもちろんうれしい。でも人との距離は、相手の反応を見つつ、程ほどに調整できるといいな…」エチオピアの人間距離感を新たに知り、みんなの親切のおかげでおちおち眠ってもいられない病気休養のさなか、ちょっぴり切なく想ったものでした。

次世代への 平和の 架け橋を

ジジガにはインマヌエル幼稚園＆小学校という全人格的教育を進める学校があります。学校を支援しているのは、マルタやサムエルが所属するフルゴスペル教会。地域で大変評判が良く、キリスト教主義の学校と知っていてもなおソマリ人の親が入れたがるそうで、ソマリ人の子が半分以上を占めます。クリスチャン経営者のホテルやカフェが数ヶ月に一回爆破されるほどソマリ人とエチオピア人（イスラム教徒とキリスト教徒）の溝が深いジジガにおいて、彼らが一緒に学び遊んでいるというのは奇跡的な環境です。またこの学校は、孤児や社会的弱さを持つ子たちの必要を覚え、30人の孤児の学費を無料にして支援してきました。

この学校を通して、キリスト教徒は信仰の異なる人たちにも全人格的な愛を尽くし、ソマリ人・イスラム教徒はキリスト教徒への偏見・誤解を修正できます。この学校がジジガにあってお互いを正しく理解して関係を修復するための平和の架け橋となっていることを想います。

ここで育った子供たちこそは、互いを理解しあう心をもって、次世代のジジガ、エチオピアとソマリアに平和を築いてくれるのでは…私は大いに期待をもって、心から祈っています。

自作の劇を披露するソロモンとハブタム
インマヌエル小学校が支援する孤児（服は劇衣装）

収入向上を通して　～アジスアベバプロジェクト～

1月からは当面、主にアジスアベバで始まる新プロジェクトに携わることになりました。首都アジスアベバは貧富の差が大きく、売買春も多く、結果としてエイズも蔓延しています。2001年のデータではアジスアベバ全体のＨＩＶ陽性率は15.6%。ジジガの19%ほどではありませんが大変高い率です。しかし、ジジガとはまた異なる状況であることも感じます。

アジスアベバでは既に多くのＮＧＯが、エイズプログラムと子供支援をしています。しかし興味深いことに貧しい家庭でも親は比較的しっかり子どもを学校に送り出し、人々はエイズに関する知識を持っている様子です。また、主な宗教はエチオピア正教というエチオピア独自の特色を持つキリスト教です。そこで、既にエイズ予防・啓発と孤児支援を行なっている現地NGOと協力し、私たちは聖書の価値観に基づいて収入向上プログラムを中心に特に母親へのアプローチを担当し、家族ぐるみの全人格的回復と自立支援を行なうことになりました。

貧困生活の中で自信を失いがちな大人たちがまず適切な自己像を持ち、仕事による収入も向上して生活の必要を満たしていけるようになれば、自らの全人格的回復はもちろん、子供たちも食事・教育・学用品、そして何よりも必要な愛を存分に親から満たされ、健全な自己像をもって将来への希望を育み得ます。また、エイズの問題の背後には貧困があり、いくら知識で感染予防法を知っていても、その予防によって生活収入が最低必要分を満たさないなら、貧しい女性たちにとっては今を生きることが優先されることでしょう。事実エチオピアの売春婦の多くは生きるためやむを得ずその職を選択している、という統計結果もあります。しかし、アジスアベバには裕福層も多くいて金銭がよく循環しているため、彼女たちが適切な技能と職を身をつければ、望まない売春を避けることができ、結果としてエイズの対策ともなり得ます。

このような複雑に入り組んだ諸問題になんとかして適切な形で関わりたい、という想いをもって、アジスアベバの中でも特にＮＧＯが少なく必要が多い地域を選び、まず地域の必要を聞き取り調査することになりました。これからどのように展開していくのかまだわかりませんが、問題を分析して働きを検討する貴重な機会で、現地のＮＧＯから学ぶ機会でもあり、とても楽しみです。ジジガとはだいぶ形の異なるプロジェクトですが、また違った期待を抱き、この働きを通しても、心を込めて、エチオピアの人々に仕えていきたいと想います。

アジスアベバプロジェクト候補地の視察の際に
右手前に棒に缶をさしてるのは、地酒タッヂの飲み屋という意味だが、実は暗に「売春宿」を表しているとのこと。子供もいて、普通に貧しそうな家が、そのような状況にあるのかもしれない、という現実を目のあたりにし、ここで成すべき最善の働きを、心から祈らされています。

† 覚えて お祈り下さい †

- † ジジガの孤児・養育者・地域の人たちの安全が守られ、自発的な愛をもってあらゆる必要を支えあっていけるように。トニーにまつわる守り導き、スタッフの適切な助け方の導きのために
- † ソマリア情勢の平和回復のため（ソマリア暫定政府は地域武装団と和平会議開催を検討中）。ソマリアとエチオピア（イスラム教徒とキリスト教徒）の関係が愛と平和によって修復されるように
- † アジスアベバプロジェクトが 人々の真の必要に届く形に導かれるように
- † 労働許可の書き換えが ぶじ政府から認められるように（ジジガ撤退のため再び難航中）
- † 健康の完全回復のため。高橋ゆかりスタッフと日本にいる家族の健康も 霊肉とも守られるように

このレターを書いている途中、体調を崩してアメーバ赤痢が判明し、やっと回復してきて作成を再開したら今度は、労働許可書き換えが難航しているとの知らせが届き、入国ビザ取得のための一時出国が急遽決まりました。皆様のお手元にこのレターが届く頃、私はケニヤの地にいるかもしれません。

2月21日でエチオピアに来て早一年が経とうとしています。数え切れないほど先行きの予測がつかない大変な事がありましたが、本当にあっという間で、そしていつも思いもよらぬ解決の道、平安と希望が与えられてきた恵みの導きを思い起こしました。今も私にはわからないことだらけですが、すべては愛である神の御手の中で、神の許しがあって起こっていることを知っています。自分の思い通りでなくても、神への信頼を失わず、派遣二年目も心の平安をしっかり保ち、希望をもって労し続けていきたいものです。何よりも、支援者の皆様のお祈りとお支えなくしては決して続けることができなかった一年間の奉仕であったことを想い、改めて心から感謝申し上げます。今後もどうかご一緒に働き続け、共に喜びに与って下さいますよう宜しくお願い致します。神様が皆様お一人ひとりに豊かに報い、すべてを祝福で満たしてくださいますよう、感謝して祈りつつ。

働きの継続のため ご支援下さい

私のエチオピアでの活動は、すべて皆様からの指定献金によって進められていきます。エチオピアでの働きを継続し、より多くの実を結んでいくために、経済的に支える形で共に労して下さる方は、**通信欄に「青山指定」とご明記の上**、以下の郵便口座へお振込願います。なお、ご指定のない場合は、この働きではなく、一般献金扱いとなります。ご留意下さい。お手持ちの郵便口座からの**自動引き落としも可能**です。ご希望の方は国際協力隊(下左記)までご連絡下さい。

口座番号：００１７０-9-６８５９０
加入者名： 日本国際飢餓対策機構

■ お便り・お問い合わせ ■

日本国際飢餓対策機構では、月に一度、以下へお送り下さった皆様からの郵送物を、エチオピアへ転送しております。お急ぎでない際にはご利用下さい。

その他、**住所変更のご連絡**（転居の際には、必ずお伝え下さい）、お問い合わせなども、以下の国際協力隊で受け付けております。どうぞよろしくお願い致します。

〒581-0032 八尾市弓削町３－７４－１
日本国際飢餓対策機構・国際協力隊 青山亜紀子
TEL/FAX: 072（920）2227/2155

■ メール版・月間報告のお知らせ ■

レターとは別に、電子メールでも月間報告をお送りしております。ご希望の方は青山（下記）までご連絡下さい。

■ 青山亜紀子・エチオピアの連絡先 ■

メール： aaoyama@fhi.net (日本語で送受信できます)
住所 ： Akiko Aoyama
c/o FHI Ethiopia, P.O.Box 4181,
Addis Ababa, Ethiopia

郵送物は比較的安全に届きますが、メールの送受信が時々うまくいかないことがあります。どうぞご了承下さい。

このレターの発行は、上大岡聖書教会内・『青山亜紀子を支える会』の皆様に ご協力を頂いております。
日本同盟基督教団・上大岡聖書教会 牧師：菊池実 〒234-0052 横浜市港南区笹下7-13-2 TEL: 045(845)4536